事例３　内容に即して筆者の心情や人物像を考えながら読む

１　ねらい

新学習指導要領の「古典Ｂ」の指導事項「（１）イ　古典を読んで，内容を構成や展開に即して的確にとらえること。」を指導の中心に取り上げる。「古典Ｂ」の言語活動例の「ウ　古典に表れた人間の生き方や考え方などについて，文章の表現を根拠にして話し合うこと。」を参考にして設定した、「筆者の心情や人物像を考え、話し合う」という言語活動を通して、古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえるという言語能力を育成する。

この実践では、学習内容に対して納得をもって理解させることで、生徒が学ぶ楽しさを感じられるようにした。学習内容に対して納得をもって理解させるため、授業の中に、現代語訳をするだけであると、おそらく生徒が見過ごしてしまうような部分（筆者の心情の揺れ）を、ワークシートでの作業やクループでの話合いによって丁寧に読みといていく学習場面を設けた。

２　学習活動の概要

（１）単元名　随筆　『枕草子』－「二月つごもりごろに」－

（２）単元の目標

①古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえようとする。（関心・意欲・態度）
②古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。（読む能力）
③古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。（知識・理解）

（３）取り入れる言語活動

筆者の心情や人物像を考え、話し合う。

（４）単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
本文を構成や展開に即して的確にとらえて読む中で、内容に即して筆者の心情を考えようとしている。	本文を構成や展開に即して的確にとらえて読む中で、内容に即して筆者の心情を考えている。	形容詞の語幹の用法や絶対敬語など、読解に関わる主な文法事項について理解している。

（５）指導と評価の計画（全４次）

次	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1	**●清少納言についてのイメージをもつ** （1）清少納言の人物像を考え、発表する。	○以前に学習した『枕草子』の文章を基にして人物像を考えさせる。	
2	**●本文の内容を把握し、読解に関わる主な文法事項を理解する** （1）本文を音読する。 （2）現代語訳をしながら内容を把握する。 （3）形容詞の語幹の用法や絶対敬語など、読解に関わる主な文法事項を確認する。	○机間指導をする。 ○主語を補って訳させる。 ○筆者の心情を表す言葉に注意させる。	**知識・理解** 〔行動の観察〕
3	**●内容に即して筆者の心情を考える** （1）場面ごとに「筆者の心情」と「筆者がそのように感じた理由」をまとめる。はじめは個人で考え、途中からはｸﾞﾙｰﾌﾟで話し合いながらまとめる。〔ﾜｰｸｼｰﾄ①（資料１）〕 （2）「内侍に奏してなさむ」とはどういう評価であるのかを考える。 （3）返答の評価を聞いた後の筆者の心情を想像し、発表する。〔ﾜｰｸｼｰﾄ②（資料２）〕 --- **●「空寒み」の歌を理解する** （1）「空寒み」という筆者の返答の何がすばらしいのかを考える。	○机間指導をする。 ○「内侍」とはどのような位であるのかを、国語便覧を使用して確認させる。 ○周囲の生徒と意見交換させる。 --- ○教科書の語注を使用し、説明する。	**読む能力** 〔ﾜｰｸｼｰﾄ①の記述の確認〕
4	**●筆者の人物像を考える** （1）再度、清少納言の人物像を考える。〔ﾜｰｸｼｰﾄ②（資料２）〕		**関心・意欲・態度** 〔ﾜｰｸｼｰﾄ①、ﾜｰｸｼｰﾄ②の記述の分析〕

３　授業の様子

【第１次】清少納言についてのイメージをもつ。

ここは単元の導入として0.5時間程度で実施した。

「清少納言の人物像を考える」場面では、中学校で学習した「春はあけぼの」、高校で学習した「木の花は」、「村上の先帝の御時に」、「雪のいと高う降りたるを」などを基にして、自分が抱いている清少納言のイメージを挙げさせた。生徒からは「プライドが高く負けず嫌いな才女」、「自分に自信がある」、「他人をよく観察していそう」、「紫式部と仲が悪そう」、「四季が好き」、「中国のものが好き」などの意見が出た。周囲と相談させたため少々時間がかかったが、活発に話し合っている様子が見られた。

【第２次】本文の内容を把握し、読解に関わる主な文法事項を理解する。

ここは約1.5時間をかけて展開した。

「現代語訳をしながら内容を把握する」場面では、主語を補いながら訳すように生徒に指示した。また、内容を理解する上で特にポイントとしたい文法事項（形容詞の語幹の用法や絶対敬語）については、その都度確認しながら読み進めた。

【第３次】内容に即して筆者の心情を考える。「空寒み」の歌を理解する。

ここは、ワークシートを使用しながら約1.5時間をかけて展開した。

まず、ワークシート①(**資料１**)を使い、内容に即して筆者の心情を整理した。筆者の心情の変化が分かるように、このワークシートは本文の五つの場面ごとに、筆者の「心情」と筆者がそのように感じた「理由」を整理するようにしてある。なお、「心情」は本文からの抜き出しになるが、本文の抜き出しだけでは理解できない生徒がいるかもしれないことにも配慮して、隣に現代語訳も書かせるようにした。

「心情」は大部分の生徒が問題なくワークシートに記入していた。机間指導をした際、記入できていない者が数名いたため、現代語訳を参照させ、心情を表す言葉(「思ひわづらふ」など)に注目するようにヒントを与えた。

「理由」については、行き詰って書けなくなる生徒がいることが予想されたため、グループで話し合いながらまとめさせた。グループによって多少差はあったが、おおむね活発に話し合っていた。次に挙げるのは、「理由」についての生徒の意見の例である。

●「公任の宰相からの課題が来る」場面で、筆者が「思ひわづらひぬ」と感じた理由

・公任は和歌の名手だから　・公任は偉い人だから　・今日の天気によく合っている上手な下の句だから

・軽い気持ちで考えた句は返せないから

●「殿上の間にいる人々が誰かわかる」場面で、筆者が「心一つに苦しき」と感じた理由

・公任の他にも立派な人がそろっているから　・下手な返事をしたら期待を裏切ることになるから

・中宮定子の評価にかかわるから

●「『空寒み…』という返事を書いて渡す」場面で、筆者が「わびし」と感じた理由

・自分の歌に自信がなかったから　・焦って投げやりに書いたので不安だったから

・中宮定子に相談できなかったから　・この答えによって自分の評価がどうなるかと思い、気になったから

・公任がどう思うか心配だったから　・この返答が中宮定子の評判にかかわるから

この後、授業ではワークシート②(資料２)を使い、「自分の返事の評価を聞いた後の筆者の心情」も想像して発表させた。「自分の返事の評価を聞いた後の筆者の心情」そのものは本文には書かれていないが、これを想像させることで、場面ごとに筆者の心情を整理してきた今までの学習の流れを発展させながら、「筆者の人物像を考える」という次の学習活動につなげることを意図した。生徒は自分が書いた内容を周囲と見せ合いながら、意見を交換していた。次に挙げるのは、「自分の返事の評価を聞いた後の筆者の心情」についての生徒の意見の例である。

・自分の歌を評価してくれてうれしい　・宰相をがっかりさせるような返事だと思われずよかった

・やっぱり私はすごかったんだ　・評価がよくって安心した。定子様も喜んでくれるでしょう。

・やはり私には才能があるんだわ

【第４次】筆者の人物像を考える。

ここはワークシート②(資料２)の後半部分を使いながら、約0.5時間程度で展開した。次に挙げるのは生徒から出てきた意見の例である。

・ イメージでは何でも自信をもってこなす人だったけれど、手がふるえるほど不安に感じることもあるのだなと思った。

・ とても才能のある人だけれど、同じようにプライドも強く、だけれども、意外と期待されると弱気になることもあるのだと思った。

・ 清少納言は頭が良く、中宮づきの女房であるから、プライドが高く、自分に自信をもっているような人だと思っていたけれど、ふるえながら返事を書いたことから、意外と普通の人だと思った。

・ 臨機応変に対応できる人。

・ 教養や実力があるので、ピンチをチャンスに変えられる人。

・ 意外と自分に自信がない。

・ 体裁を気にする人。

・ やはり賢い人。

生徒が清少納言に抱くイメージは、授業の冒頭と比べて、格段に具体的なものとなっている。二重波線のように、様々な一面をもつ等身大の人物として清少納言をとらえる見方が複数出てきたのは、ワークシートでの作業や話合いを通して丁寧に作品を読みといていく学習の中で、作品の内容をしっかりと把握できたことによるものと判断できる。また、作品の内容をしっかりと把握できたことが、次のような「授業後の生徒の感想」につながったと思われる。

【授業後の生徒の感想】

- 清少納言は落ち着いている人かと思ったけれど、焦っていて意外な一面が見られたので、面白かった。
- 清少納言の意外な一面が見られたような気がして楽しかったし、他のエピソードにも興味をもった。
- 私にとっては、今までの作品よりけっこう分かりやすかったと思う。
- 最初はどういう話か全然分からなかったが、清少納言の心情などが分かり、最終的には本文の内容まで分かったのでよかった。
- 白居易は世界史でも習ったので、リンクしている感じがして楽しかった。
- 学に対してとても評判がある人でも、期待にこたえられるだろうかというプレッシャーは常にあるのだと思った。でも、プレッシャーに打ち勝てた清少納言はすごい人だと思った。教養を身に付けることは大切なことだと感じた。
- 自分が高く評価された出来事を文章にするのは、自慢したかったのだなと思った。様々な文章を知っているといろいろな面で役に立つなあと思った。
- この「二月つごもりごろ」は『源氏物語』の次に心に残るお話だった。紫式部と清少納言はそれぞれが違う感じであり、もっと二人の作品を読んでみたいなと思った。
- 「二月つごもりごろ」を学習して才能のある人は大変だなと思いました。しかし、どんな場合でも上手な歌を作ることができる人もすごいと思います。
- 清少納言の心情が場面ごとにいろいろと変わっていくことに気付くことができて、おもしろかった。
- 昔の人の季節を感じる心や、空を眺めたり、その空模様に合わせて歌を作ったりする美しい心に感動しました。どんな小さな美しいことでも、それを深く感じる心は、現代人にはないものだと思います。
- 平安時代の作品は本当に漢詩を踏まえているものが多いんだなと思った。また、ほめられた話が多いという点も、清少納言は面白いと思った。
- 空が暗くて雪が降っているのにもかかわらず、少し春がある感じがするなんて、どういうことだろうと思っていたが、清少納言の返しを聞いてなるほどと思えた。

生徒の感想から、才女のイメージがある清少納言にも意外な一面があることにおもしろさを感じた生徒が多数いることが分かった（波線）。また、作品内容に対して納得をもって理解をしたと思われる生徒（実線）や、古文が他の教科などと関わることがあることに気付いた生徒（二重波線）、「教養は身につけた方が良い」、「様々なことを知っていると役に立つ」、「他の古典作品を読んでみたい」などと感じた生徒（破線）などもいた。

4　評価の例

読む能力の評価は、主として第３次の授業後に、ワークシート①（資料１）の記述を確認することで行った。本文の内容を基にして筆者の心情を適切にまとめてあるものを「おおむね満足できる」状況（Ｂ）とした。ワークシート①記入例（資料１）は「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と見なすことのできる例である。「努力を要する」状況（Ｃ）と判断した生徒には、心情を表す言葉（「思ひわづらふ」など）に注目させたり、現代語訳を基にしてその場面の状況を考えさせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

知識・理解の評価は主として第２次に行った。現代語訳をしながら内容を把握する学習場面において、文脈上の主語や、本文の内容を理解する上で特にポイントとしたい文法事項（形容詞の語幹の用

法や絶対敬語）を正確にとらえているかどうかを、生徒の発言や授業の様子を観察することで評価した。文脈上の主語や、本文の内容を理解する上で特にポイントとしたい文法事項（形容詞の語幹の用法や絶対敬語）を正確にとらえて現代語訳ができている生徒を「おおむね満足できる」状況（B）とした。「努力を要する」状況（C）と判断した生徒には、本文の内容を理解する上でポイントとなる文法事項に気付かせたり、文法書や辞書で調べさせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

関心・意欲・態度の評価は、主として第４次の授業後に、ワークシート①（資料１）やワークシート②（資料２）の記述を分析することで行った。本文で読み取った内容（ワークシート①（資料１）に整理した内容）を基にして筆者の心情や人物像をまとめようとしているものを「おおむね満足できる」状況（B）とした。３クラスで実施したが、大部分の生徒が筆者の心情や人物像をまとめることができた。ワークシート②記入例（資料２）は、本文から読み取った内容を基にして「筆者の人物像」がまとめられていることに加え、「自分の返事の評価を聞いた後の筆者の心情」が具体的に考えられていることから、事例実践校においては「おおむね満足できる」状況（B）の中でも優れたものであると判断し、「十分満足できる」状況（A）と見なした。「努力を要する」状況（C）と判断した生徒には、現代語訳を参照させたり周囲の生徒と話し合わせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

５　成果と課題

（１）成果

本事例の成果としては、次のようなことが挙げられる。

ア　本文の内容に対して、生徒が納得をもって理解する場を作ることができたこと

今回の授業では、現代語訳をするだけであると生徒が見過ごしてしまうような「筆者の心情の揺れ」を、ワークシートでの作業や話合いを通して丁寧にたどる学習場面を設けた。「授業後の生徒の感想」からは、生徒が、本文の内容に対して「分かった」と感じたり、本文の内容の理解の上に立って清少納言の心情の揺れを共感的に受け止めたりしていることが分かる。

本実践では、「筆者の心情の揺れ」を、ワークシートでの作業や話合いを通して丁寧にたどる学習場面を設けたことで、生徒が納得をもって理解する場を作ることができたものと思われる。

イ　能動的に学習に取り組む姿勢が見られたこと

古典の学習において生徒は受け身の態度をとりがちであるが、今回の授業では、グループでの話合いという言語活動を取り入れたことによって、積極的に話合いに加わったりワークシートにまとめたりするなど、能動的に学習に取り組む様子が見られた。

（２）課題

課題としては、次のようなことが挙げられる。

ア　読解を深める授業を継続していくこと

本文を現代語に訳すだけではなく、本文の読解を深める学習活動を授業の中に取り入れると、教材に対する生徒の理解も深くなる。そのため、現代文と同じように読解をする古典の授業を今後も続けていく必要がある。

使用教科書

『改訂版高等学校古典　古文編』第一学習社

ワークシート①

資料１

二月つごもりごろに①　三年（　　）組（　　）番（　　）

☆ 作者、清少納言の心情を本文に即してまとめてみよう。また、なぜそのように思ったのかも考えてみよう。

場面	心情	理由
公任の宰相からの課題が来る。	訳	
殿上の間にいる人々が誰かわかる。	訳	
「早く早く」と催促される。	訳	
「空寒み…」という返事を書いて渡す。	訳	
渡した後	訳	

ワークシート①　記入例

二月つごもりごろに①　三年（　　）

☆ 作者、清少納言の心情を本文に即してまとめてみよう。また、なぜそのように思ったのかも考えてみよう。

場面	心情	理由
公任の宰相からの課題が来る。	これがまはいかでかつづけらむと思いわづらいぬ。 訳 つぎの上の句はどうやってつけるのがよいだろうかと、考えあぐねてしまった。 当感	公任は偉い人だから 宰相の君である藤原公任の課題だから でも、返事は返せないから
殿上の間にいる人々が誰かわかる。	宰相の御いらへを、いかでかつかまつらむに言い出でむとしつつ苦しき 訳 宰相のお返事を、どうしてなんでもないように言い出すことができようかと自分一人では荷が重い。 当感	宰相に返事をするだけでも大変なのに、有名な人も返事を待っていると思ったから。 ※ 作者もすばらしい人達の識あるお付き合いにいることがわかったから。 宰相からの手紙をあなたにはすぐないれば中宮定子の評価にも関わるから。
「早く早く」と催促される。	ばや、おそうさへあらむは、いとをりどころなければ、さはれ 訳 遅くまであったら、取り柄がないのがどうしようもない。	中宮定子に相談できそうにないから、返事をしたから。 ※ 誰にも相談できずに返事をしたのだから。 宰相の評価が心配だから。
「空寒み…」という返事を書いて渡す。	わがなほなほなく書きそこなひて取らせたらば、いかに思ひらむとおもへど。 訳 手がまっすぐな書き取って、宰相殿がどう思ってるだろうかと思ってしまった。	
渡した後	つぎのことを聞かばやと思ふに、もとよりなれたらば聞かいもおぼゆる 訳 つぎの返事の反応を聞きたいと思うが、けなされたら聞くまいと思う	

ワークシート②

資料２

二月つごもりごろに②　三年(　　)組(　　)番(　　)

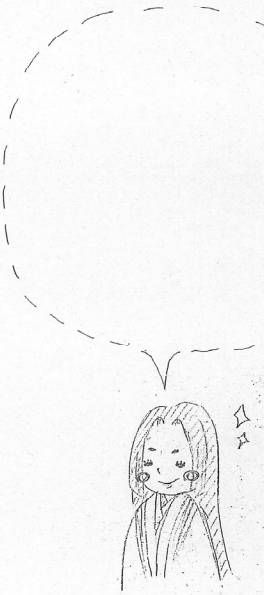
☆「内侍に奏してなさむ」とは、作者の返事に対してどう評価したのか。考えてみよう。

ステップ1　「内侍」とはどのような位なのか調べてみよう。

ステップ2　どう評価したのか。

清少納言の歌(上の句)は

☆ 自分の返事の評価を聞いて、作者はどう思ったか？　清少納言のつもりで考えてみよう。



☆ この文章から、清少納言はどのような人物だと思ったか、書いてみよう。また、そのように思った理由も書こう。

ワークシート②　記入例

二月つごもりごろに②　三年(　　)

☆「内侍に奏してなさむ」とは、作者の返事に対してどう評価したのか。考えてみよう。

ステップ1　「内侍」とはどのような位なのか調べてみよう。

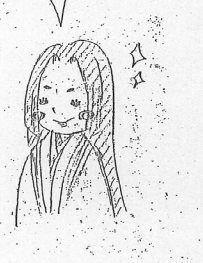
内侍
掌侍(ないしのすけ) = 従五位上
それなりの高さの位

※ 清少納言は正式な官職ではない。
(天皇に仕えている)
中宮づきの女房

ステップ2　どう評価したのか。

清少納言の歌(上の句)は　すばらしい
良い
優れている

☆ 自分の返事の評価を聞いて、作者はどう思ったか？　清少納言のつもりで考えてみよう。



☆ この文章から、清少納言はどのような人物だと思ったか、書いてみよう。また、そのように思った理由も書こう。

プライドが高い(全体的に自分への評価が高い)
機転が利く(句の意合を悟った)
知識が豊富
体裁を気にする(だれかに聞くことから)